

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 03-191952
(43)Date of publication of application : 21.08.1991

(51)Int.Cl. A61B 10/00
G06F 15/42

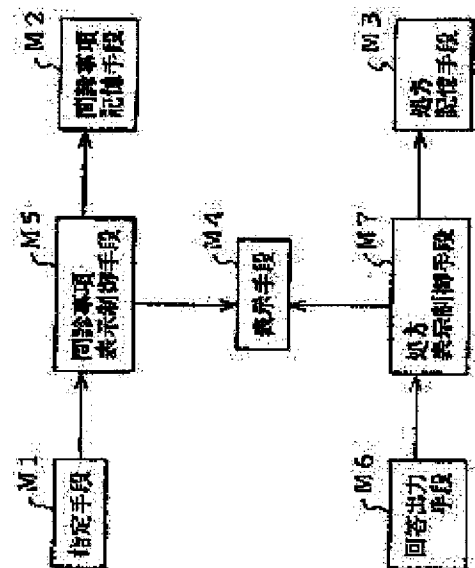
(21)Application number : 01-331967 (71)Applicant : PATOROMA RES KK
(22)Date of filing : 20.12.1989 (72)Inventor : SAGARAKI AKIRA

(54) PRESCRIPTION SELECTOR

(57)Abstract:

PURPOSE: To select a proper prescription by reading the doctor's question items of the body region from a doctor's question item memory means to display the same and reading the stored prescription to display the same when the answers to the doctor's question items is indicated by external operation.

CONSTITUTION: When an indication means M1 indicates any region of the body, a doctor's question item display control means M5 reads the doctor's question items related to various symptoms of the body region from a doctor's question item memory means M2 to display the same on a display means M4. When the answers to the doctor's question items displayed on the display means M4 are inputted from an answer output means M6 by external operation, a prescription display control means M7 reads the prescription corresponding to the symptoms of the body region from a prescription memory means M3 to display the same on the display means M4. By this constitution, at the time of a slight cold or an injury or for some time until the reception of doctor's diagnosis, an available prescription is simply known.



⑫ 公開特許公報(A) 平3-191952

⑬ Int. Cl.⁸A 61 B 10/00
G 06 F 15/42

識別記号

G 7831-4C
M 7218-5B

庁内整理番号

⑭ 公開 平成3年(1991)8月21日

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全6頁)

⑮ 発明の名称 処方選択装置

⑯ 特 願 平1-331967

⑰ 出 願 平1(1989)12月20日

⑱ 発 明 者 佐 良 木 昌 愛知県名古屋市東区葵2丁目2-21

⑲ 出 願 人 パトロマリサーチ有限 愛知県名古屋市中区千代田2丁目18番17号
会社

⑳ 代 理 人 弁理士 足 立 勉

明 細 書

1 発明の名称

処方選択装置

2 特許請求の範囲

身体各部位を指定する指定手段と、

身体各部位の諸症状に関する問診事項が格納された問診事項記憶手段と、

身体各部位の個々の症状に応じて予め作成された処方が格納された処方記憶手段と、

問診事項又は処方を表示する表示手段と、

上記指定手段により所定の身体部位が指定されると、上記問診事項記憶手段に格納された問診事項の内から、当該身体部位に関する問診事項を読出して上記表示手段に表示させる問診事項表示制御手段と、

外部操作により、上記表示手段に表示された問診事項に対する回答が指定されると、該回答を出力する回答出力手段と、

該回答出力手段から入力された回答に基づいて、上記処方記憶手段に格納された処方の内から上記

指定手段により指定された身体部位の症状に応じた処方を読出して上記表示手段に表示させる処方表示制御手段と、

を備えた処方選択装置。

3 発明の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

本発明は、身体各部位の症状に応じて処方を選択する処方選択装置に関する。

〔従来の技術〕

従来より、一般に、軽い風邪や怪我のとき、あるいは無医村や外国滞在時に発病したとき、医師の処方によって薬局で治療薬を求めるのではなく、自己の主観的判断や経験などに基づいて、市販の薬を求めて処置をする場合が多い。

〔発明が解決しようとする課題〕

しかし、上記の処置では適切な治療を施すことは難しく、ときには病氣や傷の悪化を招くことがある。このようなことから、医師の診断を受けるまでの当座の間に処置可能な処方が簡単に判る装置が久しく求められていた。

そこで、本発明は病氣や怪我に対する適切な処方を選択できる処方選択装置を提供することを目的としてなされた。

〔課題を解決するための手段〕

本発明の要旨とするところは、第1図に例示するように、

身体各部位を指定する指定手段M1と、

身体各部位の諸症状に関する問診事項が格納された問診事項記憶手段M2と、

身体各部位の個々の症状に応じて予め作成された処方が格納された処方記憶手段M3と、

問診事項又は処方を表示する表示手段M4と、

上記指定手段M1により所定の身体部位が指定されると、上記問診事項記憶手段M2に格納された問診事項の内から、当該身体部位に関する問診事項を読出して上記表示手段M4に表示させる問診事項表示制御手段M5と、

外部操作により、上記表示手段M4に表示された問診事項に対する回答が指定されると、該回答を出力する回答出力手段M6と、

図に示すように、処方選択装置1は、前述の指定手段M1としての指示スイッチ群3、前述の回答出力手段M5としての回答キースイッチ群5、表示手段M4としての液晶表示器7及び指示キースイッチ群3・回答キースイッチ5・液晶表示器7などを制御する電子制御回路9からなる装置本体20と、装置本体20に着脱可能なICカード50とを主要部として構成されている。

第3図に示すように、電子制御回路9は、周知のCPU30、ROM32、RAM34、入出力ポート36、及び各素子を相互に接続するバス37から構成されている。RAM34には、種々のデータを格納するワークエリア34aなどの領域が設定されている。入出力ポート36には、指示キースイッチ群3、回答キースイッチ群5、液晶表示器7の駆動回路38、リセットスイッチ11、コネクタ13が接続されている。

指示キースイッチ群3は目、耳、鼻などの身体各部位を表す絵文字が記された12個の指示キースイッチ3a～3lからなり、回答キースイッチ

該回答出力手段M6から入力された回答に基づいて、上記処方記憶手段M3に格納された処方の内から上記指定手段M1により指定された身体部位の症状に応じた処方を読出して上記表示手段M4に表示させる処方表示制御手段M7とを備えた処方選択装置にある。

〔作用〕

以上のように構成された本発明によれば

指定手段M1が身体の何れかの部位を指定すると、問診事項表示制御手段M5が問診事項記憶手段M2から当該身体部位の諸症状に関する問診事項を読出して表示手段M4に表示させる。そして、回答出力手段M6から表示された問診事項に対する回答が入力されると、処方表示制御手段M7が、処方記憶手段M3から当該身体部位の症状に応じた処方を読出して表示手段M4に表示させる。

〔実施例〕

本発明の一実施例を図面に基づいて説明する。

まず、第2図は処方選択装置1の外観を示す説明図である。

群5は、問診事項に対する肯定回答及び否定回答を出力するYESキースイッチ5a及びNOキースイッチ5bからなる。各キースイッチ3a～3l及び5a・5bは、個々に入出力ポート36に接続されており、指示スイッチ3a～3l及び回答キースイッチ5a・5bの何れがオンしたか判らるようになっている。また、コネクタ13には、ICカード50がコネクタ13にセットされると機械的に接点を閉じ、ICカード50が抜かれると接点を開放してICカード50の着脱状態を検出する検出スイッチ40が付設されている。

ICカード50は、ROM52、入出力ポート54、各素子を相互に接続するバス56とから構成され、カードの形状に一体成型され着脱部分に端子が集合配列されて(図には示していない)、装置本体20のコネクタ13に着脱可能である。

ICカード50のROM52には、医師の指導下で作成された身体症状に関する問診事項と問診結果に基づいた処方が、身体各部位ごとにプログラム化され(以下、処方プログラムという)、番

号ラベルを付けられてROM 52の所定領域に順次格納されている。なお、上記の処方プログラムを、男女別、子供用に作成して、それぞれ専用のICカードとしてもよい。

なお、本実施例ではICカード50が前述の間診事項記憶手段M2及び処方記憶手段M3に相当する。

電子制御回路9は電源が投入されると、記憶領域のクリアやポートの割付けなどの初期化のための処理を行ったのちに、第4図のフローチャートに示すICカード50着脱状況についての監視処理を実行する。

すなわち、ステップ60でコネクタ13の検出スイッチ40がオンかオフかによって、ICカード50がコネクタ13にセットされているか否かを判断する。ICカード50がセットされていない場合は、ステップ70に移行し、液晶表示器7の駆動回路38に表示指令信号を出力して、「ICカードをセットしてください」とのメッセージを表示する。

制御回路9は、ICカード50のROM 52に格納された処方プログラムのなかから、当該ラベルの付いた処方プログラムを選択して実行する。たとえば、鼻を表す指示スイッチ3cがオンしたときには、第5図のフローチャートに示す鼻に関する漢方薬処方処理を実行する。

まずステップ100で、液晶表示器7の駆動回路38に問診事項表示信号を出力して、「薄い鼻水がでますか(1(YES))／濃い鼻汁が出ますか(2(NO))」と液晶表示器7に表示し、ステップ110に進む。ステップ110では、回答キースイッチ5a、5bのどちらが押されたかを判断する。YESの回答キースイッチ5aが押されていればステップ120に進み、NOの回答キースイッチ5bが押されていれば、ステップ210に進む。

ステップ120では、駆動回路38に問診事項表示信号を出力して、「あなたは体力がない方ですか？YES／NOでお答えください」と液晶表示器7に表示して、ステップ130に進む。ステップ130では、回答キースイッチ5a、5bの

一方、ICカード50がセットされていれば、ステップ62に進む。ステップ62では、駆動回路38に表示指令信号を出力して、「具合の悪い部分のキーを押してください」とのメッセージを表示する。つづいて、ステップ64に進んで、指示キースイッチ3a～3dの何れかがオンされたか否かを判断する。指示キースイッチ3a～3dの何れもがオンされていなければ、ステップ62に戻り、何れかの指示スイッチ3a～3dがオンしていれば、ステップ66に進む。

ステップ66では、オンした指示スイッチに対応する身体部位ナンバ(指示スイッチ3a～3dに対応して予め設定されている)をRAM 34のワークエリア34aに格納する。つづいて、ステップ68に進み、身体部位ナンバと同じナンバが付けられているラベル(処方プログラムのラベル)を検索し、検索したラベルをワークエリア34aに格納する。

上記の処理によって、当該ラベルのアドレスナンバがワークエリア34aに格納されると、電子

どちらが押されたかを判断する。YESの回答キースイッチ5aが押されていれば、ステップ200に進み、駆動回路38に処方表示信号を出力して、「あなたのアレルギー鼻炎には、小青竜湯(しょうせいりゅうとう)が利きます」と液晶表示器7に表示して、処理を終了する。

一方、NOの回答キースイッチ5bが押されていればステップ140に進み、駆動回路38に問診事項表示信号を出力して、「あなたの体力は人並以上ですか？YES／NOでお答えください」と表示器に表示して、ステップ150に進む。ステップ150では、回答キースイッチ5a、5bのどちらが押されたかを判断する。YESの回答キースイッチ5aが押されていれば、ステップ160に進み、駆動回路38に処方表示信号を出力して、「あなたのアレルギー鼻炎には、麻黄湯(まおうとう)が利きます」と液晶表示器7に表示して、処理を終了する。

一方、NOの回答キースイッチ5bが押されていればステップ170に移行して、駆動回路38

に問診事項表示信号を出力して、「首・肩がこりやすいですか? YES/NOでお答えください」と液晶表示器 7 に表示し、つづいてステップ 180 に進む。ステップ 180 では、回答キースイッチ 5 a、5 b のどちらが押されたかを判断する。YES の回答キースイッチ 5 a が押されていればステップ 190 に進んで、駆動回路 38 に処方表示信号を出力し、「あなたのアレルギー鼻炎には、葛根湯（かつこんとう）が利きます」と液晶表示器 7 に表示して、処理を終了する。また、NO の回答キースイッチ 5 b が押されていれば、上述のステップ 200 に移行する。

また、ステップ 110 からステップ 210 に移行すると、駆動回路 38 に問診事項表示信号を出力して、「目が痒いですか?」と液晶表示器 7 に表示する。つづいて、ステップ 220 に進み、回答キースイッチ 5 a のどちらが押されたかを判断する。YES の回答キースイッチ 5 a が押されていれば、ステップ 230 に進み、駆動回路 38 に処方表示信号を出力して、「あなたのアレルギー

鼻炎には、荊芥連翹湯（けいかいれんぎょうとう）が利きます」と液晶表示器 7 に表示して、処理を終了する。

一方、NO の回答キースイッチ 5 b が押されていれば、ステップ 240 に移行し、駆動回路 38 に処方表示信号を出力して、「あなたのアレルギー鼻炎には、辛夷清肺湯（しんいせいはいとう）が利きます」と液晶表示器 7 に表示して、処理を終了する。

以上の処理の結果、鼻水がでる人で、体力がない人には「小青竜湯」との処方が、体力が普通の人には「葛根湯」との処方が、体力の強い人には「麻黄湯」との処方が、それぞれ表示され、鼻汁が濃い人で、目が痒い人には「荊芥連翹湯」との処方が、目が痒くない人には「辛夷清肺湯」との処方が、表示される。

なお、本実施例では、上記の漢方薬処方処理が前述の問診事項表示制御 M5 及び処方表示制御手段 M7 に相当する。

以上説明したように、本実施例では、身体部位

（鼻）の諸症状にあった処方（漢方薬処方）が提示されるので、適切な投薬を行うことができる。

また、問診事項に対して「YES」/「NO」で応答するだけで処方が表示されるので専門的な知識を要せず適切な処方を簡単に得ることができる。

なお、本実施例では、漢方の処方を例に採って説明したが、傷や骨折の手当、心筋梗塞の応急処置、人工呼吸の方法などを提示するように構成してもよい。

また、本実施例では、日本語で問診事項及び処方を表示したが、外国語で表示するようにしてもよい。さらに、翻訳処理のためのプログラムを ROM に格納した IC カードを作製し、指示キースイッチ 3 a ~ 3 g を押すと、当該身体部位の不調を外国語に翻訳して表示するようにしてもよい。

たとえば、頭キースイッチ 3 d を押すと、「頭が痛い。（英）I am headache.」と表示し、もう一度同キースイッチ 3 d を押すと、「頭が痛い。（独）Kopfschmerzen haben.」

と表示するように構成してもよい。

この場合には、外国で医者にかかるときに、大変役にたつ。

【発明の効果】

以上詳述したように、本発明によれば、身体各部位の諸症状に関する問診事項を提示し、その問診事項に対する回答に応じた処方を表示するので、適切な処方を選択できる。

4 図面の簡単な説明

第 1 図は本発明を例示する概略構成図、第 2 図は実施例の簡易処方装置を表す説明図、第 3 図は簡易処方装置の電気的構成を表すブロック図、第 4 図は電子制御回路で実行される監視処理のフローチャート、第 5 図は電子制御回路で実行される漢方薬処方処理のフローチャートである。

M1…指定手段 M2…問診事項記憶手段
M3…処方記憶手段 M4…表示手段
M5…問診事項表示制御手段
M6…回答出力手段

M7…処方表示制御手段

1…処方選択装置 3…指示キースイッチ群

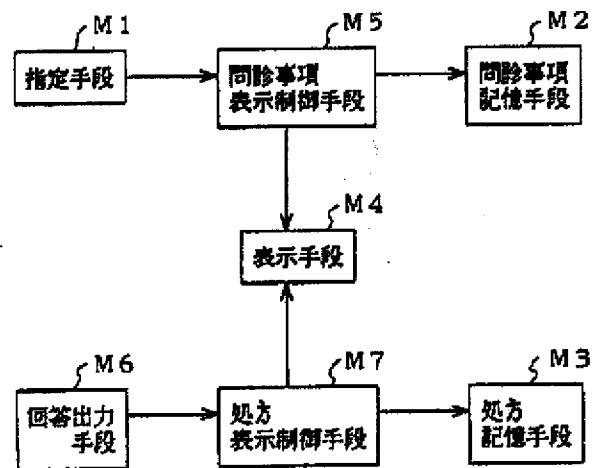
5…回答スイッチ群 7…液晶表示器

9…電子制御回路

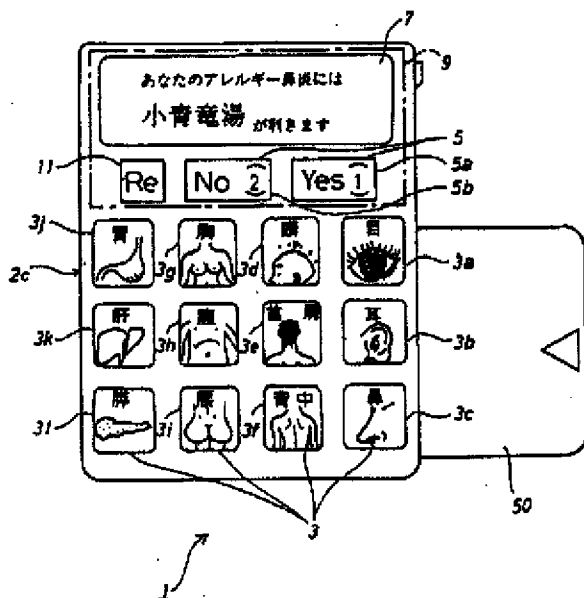
50…ICカード 52…ROM

代理人 弁理士 足立 勉

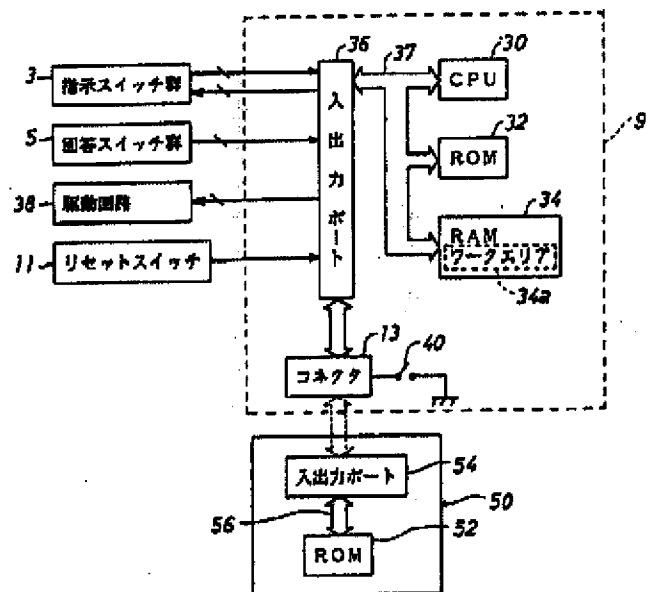
第1図



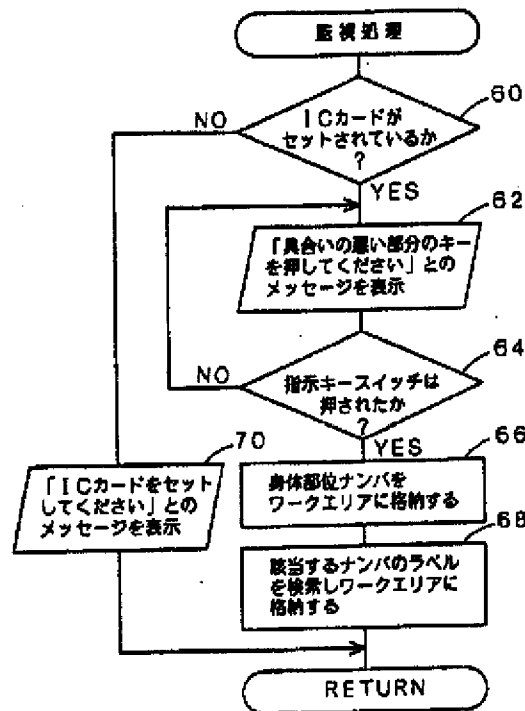
第2図



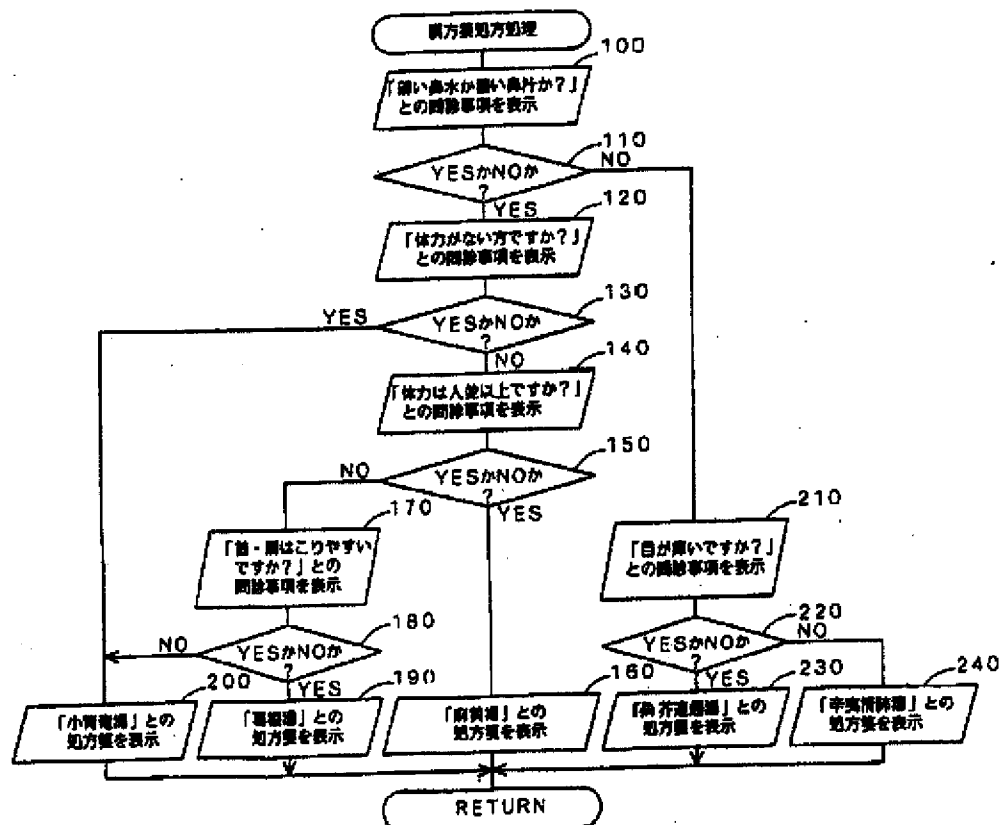
第3図



第 4 図



第 5 図



【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
 【部門区分】第1部門第2区分
 【発行日】平成6年(1994)7月19日

【公開番号】特開平3-191952
 【公開日】平成3年(1991)8月21日
 【年通号数】公開特許公報3-1920
 【出願番号】特願平1-331967
 【国際特許分類第5版】

A61B 10/00 G 8718-4C
 G06F 15/42 M 7218-5L

手続補正書

平成 5年 6月 11日

特許庁長官 森 生 渡 殿

1. 事件の表示

平成1年特許願第331967号

2. 発明の名称

処方選択装置

3. 補正をする者

事件との関係 特許出願人

住所 名古屋市中区千代田二丁目18番17号
 名称 パトロマリサーチ有限会社
 代表者 黒野 恵美子

4. 代理人

〒450
 住所 名古屋市中区錦二丁目9番27号
 名称 名古屋機械ビル
 氏名 (8250) 弁理士 足立 勉

5. 補正命令の日付 自発

6. 補正の対象

- ・願書の「発明の名称」の欄。
- ・明細書の「特許請求の範囲」及び「発明の詳細な説明」の欄。

7. 補正の内容

(1) 願書の発明の名称の記載を別紙訂正願書の通り補正する。

(2) 特許請求の範囲の記載を別紙1の通り補正する。

(3) 明細書の第2頁第7行に、「処方」とあるを、「投与薬 手当、および応急処置といった対処方法を」と補正する。

(4) 明細書の第2頁第19行に、「間に処置可能な処方」とあるを、「間の応急処置や投与してもよい薬など適切な対処方法」と補正する。

(5) 明細書の第3頁第1行から同頁第2行に、「処方」とあるを、「対処方法」と補正する。

(6) 明細書の第3頁第10行から同頁第11行に、「応じて予め作成された処方」とあるを、「対応した投与薬 手当、および応急処置といった対処方法」と補正する。

(7) 明細書の第3頁第12行に、「処方」とあるを、「対処方法」と補正する。

(8) 明細書の第4頁第2行に、「処方」とあるを、「対処方法」と補正する。

(9) 明細書の第4頁第4行に、「処方」とあるを、「対処方法」と補正する。

(10) 明細書の第4頁第16行に、「処方」とあるを、「投与薬、手当、および応急処置といった対処方法を」と補正する。

(11) 明細書の第6頁第19行に、「基づいた処方」とあるを、「基づいて選択される投与薬、手当、および応急処置といった対処方法」と補正する。

(12) 明細書の第13頁第10行と同頁第11行との間に、下記の文章を挿入する。

「また、本実施例では、最初に身体各部位を指示キースイッチにより指定し、その後、指定された身体各部位に応じて諸症状に関する問診を行なうように構成しているが、例えば、痛みや発熱など概略の症状を指定する指示キースイッチを設け、身体各部位だけでなく概略の症状も指示キースイッチで指定できるようにし、その後、その症状に関する詳細な問診を行なうように構成してもよい。」

(13) 明細書の第14頁第7行から同頁第8行に、「応じた処方を…選択できる。」とあるを、下記の通り補正する。

「応じて、投与すべき薬、施すべき手当や応急処置といった対処方法を選択し表示するので、専門的な知識がなくても症状に応じた適切な対処方法を知ることができる。」

以 上

2 特許請求の範囲

身体各部位を指定する指定手段と、

身体各部位の諸症状に関する問診事項が格納された問診事項記憶手段と、

身体各部位の個々の症状に対応した投与薬、手当、および応急処置といった対処方法が格納された処方記憶手段と、

問診事項又は対処方法を表示する表示手段と、

上記指定手段により所定の身体部位が指定されると、上記問診事項記憶手段に格納された問診事項の内から、当該身体部位に関する問診事項を取出して上記表示手段に表示させる問診事項表示制御手段と、

外部操作により、上記表示手段に表示された問診事項に対する回答が指定されると、該回答を出力する回答出力手段と、

該回答出力手段から入力された回答に基づいて、上記処方記憶手段に格納された対処方法の内から上記指定手段により指定された身体部位の症状に

応じた対処方法を取出して上記表示手段に表示させる処方表示制御手段と、
を備えた処方選択装置。